

埼玉県立 小児医療センター だより

● 埼玉県立小児医療センター

〒339-8551 さいたま市岩槻区馬込2100

Tel▷048-758-1811 Fax▷048-758-1818 E-mail▷n581811@pref.saitama.lg.jp

URL▷<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/q04/>

日本医療機能評価機構認定病院



▲センター中庭

センターだより 第2号 ご案内

- 副病院長あいさつ 花田 良二p.2
- 栄養サポートチーム (NST) の活動p.3
- 部門紹介 未熟児新生児科p.4~5
- コメディカル紹介 薬剤部p.6
- お知らせp.7~8
- はじめて当センターを受診される方へ・アクセスp.8

センターの基本方針

- 1 質が高く、信頼される医療を行います。
- 2 地域との連携のもと小児保健、発達支援を推進します。
- 3 発育、発達にあわせた良質な環境を提供します。
- 4 子どもの人権を尊重します。



～こどもたちの未来は私たちの未来～

副院長あいさつ

副院長 はな花 だ田 りょう良 じ二



日頃小児医療センターをご利用いただき、誠にありがとうございます。本号は“だより”の再開第二号です。再開第二号の巻頭の話題として、医療安全の取り組みと悩みを紹介させていただきます。

当院には毎日400～600名の患者さんが来院なさり、最大250名に至る患者さんが入院しています。これだけの人数がいれば、似た名前の方が多々おられます。患者さんの誤認によって大きな事故に至った例は幸いにしてこれまではありませんが、ニアミスや、結果として実害は最小で済んだものの、実際に患者さんを取り違えていた例はない訳ではありません。診察室で名前をお呼びしましたが、入室した方は似た名前の別の方で、しばらくの間気付かなかった例もありました。

患者さんに、**さんですか、と申し上げると、自分が呼ばれると期待している状況では、実際には自分の名前でもなく「はい」とお答えになることがあります。保護者がお答えになっている場合も同様です。自分の名前を待ち望んでいる場合、多少の音の違いは耳をスルーしてしまいます。一字違い、といった場合はなおさらです。過去に報告されている大きな取り違い事故は、**さんとお呼びして、自分の名前でないにもかかわらず、“はい”と返事があったため、その後の事故につながっています。

ご自分から名乗っていただくことがこれを防ぐ唯一の対策です。多くの病院で実践されていますが、当院でも外来では、採血の時など実際にお呼びしたあと、患者さんに名前と生年月日をもう一度名乗っていただく取り組みをしています。慣れた患者さんは、こちらが頼む前にスラスラと名前と生年月日を言っ

て下さいます。この本人確認の作業は自分が患者の立場で他病院を受診した時などは時として煩雑に感じるものですが、常に大勢の人が出入りする環境では人違いを防ぐ最善の策です。幸いに患者さんは快く協力してくださっています。アンケートなどでも煩雑で失礼だ、といった言葉はきかれず、理解が得られているものと考えています。

外来ではこのように本人（または保護者）に名乗っていただく、という簡単な手順で確認できますが、病棟では意識のない患者さん、入眠中の患者さん、新生児、乳幼児など、名前を名乗れない患者さんがほとんどです。その上、入退院が多く平均在院の短い病棟では顔も覚えないうちに患者さんが通り過ぎていきます。さらに病棟では投薬、検査、処置などの内容が患者毎に異なり、同じ患者でも、病状の変化で急性期病床では毎日のように指示が変更されます。これらの複雑化した医療行為を正しい患者に正確に行うために、色々なルールが設けられ工夫もされていますが、手順が増えれば増えた分現場のスタッフの負担になってしまいます。一旦インシデントが起こると関係したスタッフは自分がもう少し注意をしていれば、と自分を責めます。今秋当院では電子カルテが導入されることになっています。ITの導入でスタッフの負担が減り、かつ実際のインシデントが減るという実効があることを待ち望んでやみません。

栄養サポートチーム (NST) の活動



当センターでは褥瘡^{じよくそう}対策、感染対策、呼吸療法、緩和ケアなど様々なチーム医療が行われています。栄養サポートチーム (NST: Nutrition Support Team) もその中の1つです。お子さん一人一人の栄養について考え、栄養管理を通じて病気の治療や発育・発達を支える医療チームです。

1 活動状況

平成20年7月 NST委員会設立、活動開始
平成25年4月 NST稼働施設認定取得
(日本静脈経腸栄養学会による)

2 構成メンバー

様々な職種の職員がメンバーです！
病院長、副病院長、医師 (TNT*¹研修修了医師)、看護師 (各*²認定看護師・病棟担当看護師)、管理栄養士 (NST専門療法士)、薬剤師 (NST専門療法士)、臨床検査技師、理学療法士、事務職

- * 1 医師のための臨床栄養教育プログラム
- * 2 摂食嚥下障害、皮膚・排泄ケア、糖尿病看護



NSTメンバー (田中委員長：前方左から2人目)



回診風景

3 NST活動の4本柱

① 栄養評価

入院時に看護師が栄養状態を評価します。この評価と血液検査データをもとに、管理栄養士が「栄養管理計画書」を作成します。栄養状態に問題のあるお子さんについては2週間ごとに看護師が再評価し、同様に計画書を作成します。この計画書から早めに栄養状態の悪そうな患者さんを見つけ出せるようにしています。

② NST回診 (1回/週)

通常の栄養管理では改善が困難な患者さんについて、担当医師からの依頼を受けてNSTが直接病棟にうかがいます。NSTメンバーがそれぞれの知恵 (専門性) を出し合い、栄養状態が悪い原因を探り、必要な栄養量や最適な食形態、栄養補給方法を提案して支援を行います。

③ NSTコンサルテーション (随時)

医療スタッフが栄養管理で疑問に思ったことはいつでもNSTスタッフが電話で対応できるよう、体制づくりを進めています。

④ NST勉強会 (4回/年)

当センター職員向けに栄養に関する勉強会を企画・運営し、栄養療法の啓発を行っています。

小児は年齢や体格、病態によって必要とされる栄養量が大きく変化します。また、小児の栄養では発育・発達も重要な要素です。お子さま一人一人に合わせた最良の栄養支援が行えるNSTを目指してがんばっています。

< 部門紹介 >

未熟児新生児科の紹介

未熟児新生児科はNICU（新生児集中治療室）において、未熟児・早産児やハイリスク新生児（生まれた直後に医療的ケアが必要な新生児）の病気の診療をしています。NICUは別名 Baby ER（赤ちゃんの救命救急室）とも呼ばれ、出生直後から生命の危機に瀕した新生児の命を救い、その後の健全な成長を助ける医療を行っています。

赤ちゃんが生まれるとき、だれもが「元気な赤ちゃん」が生まれることを望んでいますが、最近の統計では約10%の赤ちゃんには、新生児期に何らかの医療的ケアが必要とされています。そのため、我々は「安全・安心な妊娠、出産、育児」をサポートするために、24時間体制で未熟児・早産児、ハイリスク新生児に対する新生児医療を提供します。

我々が担当する主な疾患は以下の通りです。

- ◆ 出生体重2000g未満の低出生体重児、極・超低出生体重児
- ◆ 急性の呼吸循環不全又は慢性の呼吸循環不全の急性増悪
- ◆ 先天異常、先天奇形
- ◆ 代謝、内分泌異常（高ビリルビン血症、電解質異常、肝腎不全、糖尿病など）
- ◆ 意識障害、痙攣など中枢神経異常徴候を有する新生児
- ◆ 新生児早期に手術を要する児
- ◆ 上記以外のハイリスク児（生命や後障害の危険の高い児：例えば、低体温、発熱、感染症、多血症、出血傾向など）

などです。

また、小児医療専門病院としての特性を生かし、未熟児・新生児のあらゆる疾患に対し関連各科との連携のもとに診断、治療にあたっています。特に未熟性に起因する疾患、呼吸循環障害、脳障害、感染症などの重篤な疾患に対しては、後遺症を残さないための治療と退院後の健全な発育、発達のために母子関係や地域の医療、保健、教育機関との連携にも力を注いでいます。

未熟児新生児科が担当する未熟児新生児病棟は、埼玉県周産期医療ネットワークの基幹病院の一つとして、365日24時間体制で県内のすべてのハイ



リスク新生児に対して最高度の新生児医療を提供しています。完全紹介型診療体制であり、周辺大学病院・市立病院・地域産科小児科から24時間体制でハイリスク新生児の救急搬送受け入れを行っています。超低出生体重児や仮死出生児などの出生直後から高度新生児集中医療が必要な児は、当センター所有の新生児搬送車（ドクターカー）により埼玉県内各地や近隣地域へお迎え搬送を行い、初期治療を行いながら新生児集中治療室（NICU）へ入院となります。

ハイリスク妊婦母体に関しても、できる限り分娩立会いを行う方針でいます。当NICUが満床などで入院受け入れができない場合には、責任を持って新生児の受け入れ先病院を探し、適切な対応をするように心がけています。

未熟児新生児科では、重症新生児疾患に対する新たな検査方法や治療方法の開発や検討を行う一方で、NICU退院後の育児支援・家族支援にも重点を置き、下記に示すような取り組みを行っております。



◆ 新生児脳低温療法

重症新生児仮死（低酸素性虚血性脳症）に対する治療法で、予期せず生まれた重症新生児仮死児の予後を少しでも改善させるために行う脳保護療法の一つです。その脳保護効果は認められており、現在広く全国に普及しておりますが、国内では当NICUが最も早く1999年に臨床応用しました。今までに治療してきた患児数は180名を超え、国内で最も多くの治療経験があり、全国から医師が研修に來ています。

◆ 一酸化窒素吸入療法

新生児遷延性肺高血圧症という最重症な呼吸循環不全の新生児に対して、特殊な医療用一酸化窒素ガスを用いた治療を行っています。

◆ 血液浄化・透析療法

先天性代謝異常症、重症感染症などの重篤な新生児に対して、当センター腎臓科、小児外科との迅速な連携により、血液浄化・透析療法を行っています。

◆ すくすく外来（包括的発達支援外来）

当NICUを退院した出生体重1000g未満の超低出生体重児のお子さまとご家族を対象に、発達支援外来を年3回（6月、10月、2月）行っています。多職種（未熟児新生児科医師・神経科医師・未熟児新生児病棟看護師・保健発達外来看護師・理学療法士・作業療法士・臨床心理士・言語聴覚士・栄養士など）による発達支援およびご家族の育児支援を目的とした集団外来です。

◆ つくしんぼ外来（個別重点発達支援外来）

当NICUを退院した出生体重1500g未満の極低出生体重児のお子さまとご家族を対象に、個別に時間をかけて育児支援、発達支援、育児不安相談、虐待防止等の目的で行っています。外来は、月2回第1、3木曜日午後です。

未熟児新生児病棟に勤務する看護師数は80名、医師11名や看護助手10名、保育士1名を含めると計100名を超える大所帯です。日々、緊急入院に備え、こどもたちの看護ケアに必要な技術のトレーニングを積み、ベッドを必要としているこどもたちやご家族に安心してお過ごしいただくことができる療養環境の整備に努めています。

様々な職種の協力を得てチーム医療を推進し、こどもたちやご家族の方々のお声に耳を傾け、お子様とともにご家族皆様が健やかに過ごせることができるよう、これからもスタッフ全員が協力し合い尽力して参ります。



コメディカル
紹介

Pharmacy

薬剤部

現在14名の薬剤師が、調剤室、注射薬室、製剤室、薬物血中濃度測定室、医薬品情報室に薬剤業務を分担し、それぞれがお薬を通じて小児医療を支援しています。

■ 調剤室

医師の処方に応じて、飲み薬や外用薬を中心にお薬を調剤しています。小児の飲み薬は成人と比べて量がとても少なく、また錠剤やカプセルを飲めない患者さんが多いため、粉薬や水剤が多いことが特徴です。錠剤をつぶしたりカプセルを外したりして粉薬として調剤することも多く、手間と時間がかかります。細かい薬用量を正確、清潔、迅速に調剤するために工夫しています。外来の患者さんにお薬を渡しているのが、この調剤室の薬剤師です。



■ 注射薬室



入院している患者さんの注射や点滴を個人ごとにセットし、病棟に払い出しています。注射を安全に投与できるように、投与量、投与速度、相互作用、配合変化などをチェックします。また、小児医療センターで扱う約1200種類の医薬品の購入、管理、各部署への供給をしています。

■ 製剤室

抗がん剤と中心静脈栄養輸液の混合を行っています。清潔かつ安全にこれらの注射薬を混合するために、無菌室などの設備が整っています。また、市販されている医薬品だけではすべての疾患に対応できないので、院内製剤と呼ばれるお薬を調製することもあります。院内製剤も製剤室で清潔に調製しています。



■ 薬物血中濃度測定室



お薬には、効果的な量と有害な作用を引き起こす量が近いものがあります。このようなお薬の血液中の濃度を、いろいろな機械を使って測定しています。測定結果は、患者さん個々に最適な投与量を決める目安になります。

■ 医薬品情報室

病院内で必要なお薬の情報を収集し、発信します。医師をはじめ、医療スタッフや患者さんからのお薬に関する問い合わせに対応しています。その他に、一部の入院患者さんの病室を訪問してお薬の飲み方や副作用の説明をします。また、新しいお薬の開発のための治験のサポートも行っています。

■ 治験について

当センターでは新しい治療法の開発のために、お薬の臨床研究を行っています。これを「治験」といいます。薬剤部では、この「治験」で使用される治験薬の調剤や管理に協力しています。

お知らせ

医療安全管理研修—Team STEPPS (基礎編)—が開催されました

5月20日、21日、28日に医療安全管理研修のひとつTeam STEPPSが開催されました。参加した職員は、それぞれが普段顔を合わせることの少ない医師、看護師、技師、事務職員、保育士など他職種でグループを組みました。最初は緊張で会話が少なかったグループのメンバーが、研修を通して会話や笑顔が増えていきとても盛り上がりました。今回の研修を通してチームワークの大事さを学び、コミュニケーションの必要性を実感しました。



グループ対抗ゲームをしながら、チームワークを高めました。

Team STEPPSとは

“Team STEPPS”とは、「Team Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety」の略で、医療の質、患者安全、効率を改善するエビデンスに基づいたチームワーク・システムのことです。チームのパフォーマンスを向上し、患者のアウトカム（目標とする治療結果）を最適化すること、そのために必須である患者の安全を最優先に考える「安全文化」を醸成することを目指すチームトレーニングの一つです。

コードブルー研修会を実施しました

5月24日、今年度初のコードブルー研修会が実施されました。今回は、センター内でコードブルー（救命救急時の対応）の要請があったときに、患者さんにどのように処置をしたらいいのか学びました。救急処置を施すまでの流れ、AEDの取り扱い方など実践を意識した研修会でした。当センターでは、年に数回の抜き打ちのコードブルー訓練を行っております。今回の研修を生かし、訓練時や実際にコードブルーがかかったときに対応を適切に行えるようにしていきます。



ホスピタルクラウンが当センターに来ました♪

5月23日、センター内にホスピタルクラウンが来ました。各病棟に回っていただき、患者さんや家族の方々の笑顔でいっぱいの空間が広がりました。



看護の日イベント

5月8日、看護の日のイベントとして、“食育”についての展示とエプロンシアターが行われました。看護師や保育士が臓器の描いてあるエプロンをつけ、食べてから排泄までのお話と好き嫌なく食べる大切さについてお話ししました。患者さんも一緒に歌ったり手拍子したりしながら、楽しく学びました。また、子供用の看護師ユニフォームの貸し出しも行いました。聴診器で心音をきいたり、記念撮影をしたりして未来の看護師さん体験をしました。



はじめて当センターを受診される方へ

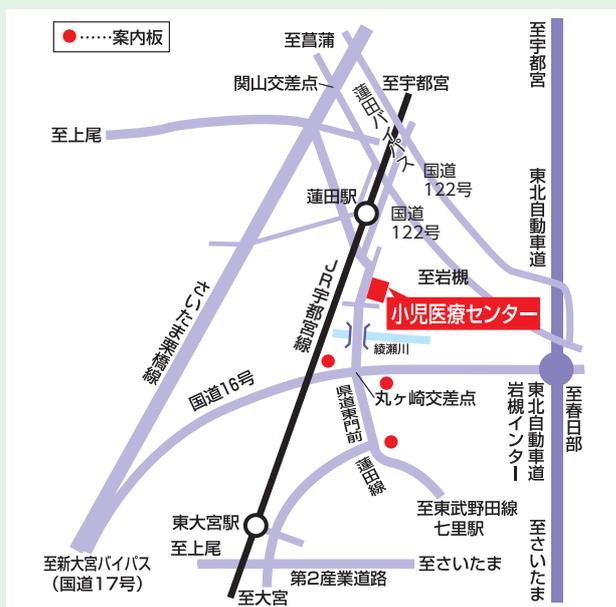
当センターは高度、三次医療を担う専門病院のため、紹介制、予約制になっています。

1 受診のための手続きは・・・

現在のかかりつけ医師に紹介状（診療情報提供書）を書いていただき、☎048-758-1822（一般外来予約専用回線）にお電話下さい。保健発達外来は専用回線 ☎048-758-2165です。受け付け時間は、平日の午前9時～午後5時となります。なお、緊急を要する際は、紹介元の医師から、当センターの担当医師に直接ご連絡いただくこととなります。その際には、☎048-758-1811(代)へお願いします。

2 セカンドオピニオン外来について

セカンドオピニオンのご相談も受け付けています。患者ご家族様から直接 ☎048-758-1811(代)へご予約をお願いします。



アクセスについて

◎ 交通機関の場合：

JR蓮田駅東口より国際興業バスにて約10分
料金170円。
タクシーでは約5分 料金は800円程度。

◎ 自家用車の場合：

東北道岩槻ICから、さいたま市（旧大宮）方面へ国道16号で丸ヶ崎交差点を右折し、約500m先右側になります。



埼玉県のマスコット コバトン